

京都の情報

URL <http://www.kimono-saganoya.com>

2月は、節分祭が全国的に行われます。節分の季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると考えられており、それを追い払うための悪霊ばらい行事のことですね。京都では、昔からの伝統行事として行われている神社から、一つ有名な神社をご紹介します。



吉田神社の節分祭（よしだじんじゃのせつぶんさい）

京都大学の裏にある吉田神社です。節分祭は、室町時代に執行されて以来、信仰と伝統を誇る京洛の一大行事です。

毎年、約50万人の参拝者が訪れ、境内は多くの露店と厄除祈願やくちなし色の御神札を求める参拝者の人波で埋め尽されます。



追儺式（ついなしき）は前日の午後6時本宮において行われ、俗に「鬼やらい」と呼ばれ、親しまれています。

平安朝の初期より毎年宮中にて執行されていたものを、古式に則って厳修に伝承・継承されており、古の趣を現在に伝える数少ない神事の一つといえます。

その儀式は、大舎人が黄金四つ目の仮面を被り、玄衣朱裳を着装し、盾矛をとって方相氏となり、子

（しんし※人偏に辰）という小童を多数従え、陰陽師が祭文を奏し終えれば方相氏大声を發し盾を打つこと3度、群臣呼応して舞殿を巡ります。最後に上卿

以下殿上人が桃弓で葦矢を放ち、疫鬼を追い払います。平安京鎮護の神として、

また全国の神を祀る社として、鬼すなわち悪神を追い払い諸人の不幸を除いて、

人々の幸福と平和な生活を願います。



火炉祭（かるさい）は当日午後11時より行われます。

本社の三ノ鳥居前に、直径5メートル高さ5メートルもの巨大な八角柱型の火炉を設けており、参拝者が持参した古い神札が納められています。その火炉に浄火を点じ焼き上げます。その様は盛観を極め、火焰が天に冲する時人々が待ち

望みし春（立春）が訪れます。



くちなし色は、古くより魔除けの力があると言われており、神符がくちなし色に染められています。そして、車やテレビなどが当たる「抽選券付き厄除け福豆」も参拝者の楽しみの一つとして親しまれています。これが、一番の楽しみかも。(^_^)

すみません、今回は、吉田神社の紹介だけになってしまいました～(^_^。「春よ来い！！」

着物のクリーニングを承っています。

嵯峨乃や

TEL 0573-28-3171